

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4391500065 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 孔和会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 桜ん里 | | |
| 所在地 | 天草市河浦町白木河内116-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年5月29日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年8月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 | | |
| 所在地 | 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年6月22日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「認知症」に対する専門的なプロとして、ご利用者様やその家族の方々安心して頂ける環境作り、また地域密着型サービス事業所として、地域の方々への情報発信を「桜で楽さ会(家族会)」や運営推進会議、体操教室などで行なっています。現在認知症カフェ(地域カフェ)開催に向け準備を進めている所です。桜ん里の理念である「今を心地よく私が私らしくある為に」を実現するべく職員もプロとしての自覚を持つ一方、日頃から学びの姿勢を持ち日々変化する認知症の方々への柔軟な対応、関わりがもてるよう努めています。終末期においては、その人がその人らしく最後まで過ごせるようご家族と情報提供し合いながら、出来る限り一緒の時間を過ぎて頂き穏やかな最後を迎えられるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな平屋建ての建物に、グループホーム用とデイサービス用の二つの玄関があり、両施設は中で繋がっている。ホームとデイの間にドアはあるが、日中は開放されており、ホームの利用者がデイサービスルームに出かけてレクリエーションや食材切り等を楽しんでいる。家族会や施設行事には地域住民の参加を呼びかけ、地域交流の場としても活用されている。2か月に一度開催されている運営推進会議にも力を入れており、高齢者福祉に関する様々な情報発信をしながら、ホームや認知症への理解を深める事で、ホーム運営に地域の協力が得られている。開設から10年間の着実な積み重ねで今日があり、これから更にニーズが高まるであろう地域福祉を踏まえた「地域カフェ」開設も準備されており、その拠点として更なる活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所内の目につく場所に理念を掲示し、定期のカンファレンスの時に、理念をふまえた介護が実践出来ているかを振り返り、日々の介護に活かすようにしている。 | 「今を心地良く、私が私らしくあるために」との理念を掲げ、自分の親だったらどうして欲しいかという思いで接するよう心掛けている。理念と異なる対応に気付いた時はスタッフ全員でディスカッションしたり、新人には日々のOJTを通して、理念を共有し実践に繋げる努力がみられた。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域活動である神社清掃活動への参加。また公民館にてイキイキ体操の実施。施設行事のカラオケ大会、ソーマン流し等地域との交流を図っている。また、認知症カフェ(地域カフェ)開催に向け準備を進めている。 | 小組合に加入し、回覧板で地域の情報が得られており、清掃活動や公民館活動等に積極的に参加している。カラオケ大会やソーマン流し等の施設行事の際は、各戸に案内を手配りしたり、道路に面したフェンスにポスターを取り付けて広報し、多くの地域住民に参加を促す努力が見られた。また、「桜で楽さ会」と名付けた家族会に地域へも参加を呼びかけ、医療・介護等に関する情報提供等も行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 家族介護教室(家族会)にて、地域の方々に参加して頂き、認知症の理解や介護方法を伝えている。また、キャラバンメイトの一員として地域に出向きサポーター養成講座も実施、推進会議も情報交換の場として活かしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回運営推進会議にて、入居者様の日々の様子を報告したり、事故報告、新人スタッフの紹介など行うとともに、推進委員様から頂いた意見はスタッフにも伝え話し合い改善対策など行っている。地域の情報を収集する場ともなっている。 | 運営推進会議を地域への情報発信の場とも捉えており、2か月に一度「デイサービス桜ん里」と合同で開催されている。運営の実施状況報告後、「介護報酬改定」等についての説明や地域密着型としての「桜ん里」の役割等が示され、各委員の理解に繋げる努力が見られた。会議録は、内容が詳細に記録されており、充実した会議となっている事が伺えた。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に地位包括支援センターの出席もあり、また、随時包括からの相談(困難事例)を連携して解決へと結びつける努力をしている。また、サポーターフォローアップ研修等の講師依頼にこたえたり、市と共に今後の地域作りの話し合いも行っている。 | 地域包括が把握した困難ケースの方を受け入れ、症状の改善に向けて包括と連携しながら対応したり、市からの依頼で研修の講師を引き受けるなど、市とは密に連絡を取っている。また、運営推進会議録は河浦支所へ持参し、その際ホームの状況等について伝え、協力関係を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束については、法人全体で勉強会を行い、スタッフ全員で身体拘束をしないケアを行っている。 | 法人全体やホーム独自の研修で、ケアの振り返りや事例検討等を行い、身体拘束について学んでいる。利用者の行動の理由を考え、その予防策を考えて対応することで、身体拘束のないケアに努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人全体での虐待防止のための勉強会や入居者様の身体の状況や表情など観察しながら防止に努めている。入居者様が自らぶつけて作ったアザ等も発見者が報告書を受け、全体で見守り出来るよう取り組んでいる。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 県や市が行う権利擁護についての研修に参加し、施設の勉強会で復講を行い、学ぶ機会を設けている。また、現在桜ん里でも活用されている方がおられる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時は、契約の必要性(制度)やその内容について説明を行い、疑問点や質問を解決した上で締結へと結びつけている。介護改定時にも同様にしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時や家族会等にて、家族から施設に対する意見や要望を引き出すようにしており、また、定期的に近況報告を行いご家族との信頼関係が深められるよう努力している。ターミナルケアに関しても説明、納得していただいた上でケアプラン作成としている。 | 年2回開催している家族会では、担当との関係づくりとともに、アンケートをとって家族の意見・要望等の本音を聞いて、ケアに活かし、家族との信頼関係の構築に努めている。また、「介護改正」や「終末期対応」などの説明や、郷土料理の食事会等も行い、家族にも気持ちが楽になってもらえるよう心掛けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的なカンファレンスにて、業務に対する意見や提案の時間を設け、そこで出た内容を部署会議や管理者会議にかけ、法人全体の方針のひとつとして決定、反映させている。 | 職員は担当制で、利用者に責任を持ったケアに努めており、実践の中で気づきがあれば、職員間で話し合っている。管理者は全体を把握して、業務優先になっていないかを見極めつつ、良い所を見つけて職員のやる気を引き出す努力をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個人面談を年2回実施し、人事考課を用い、人材育成を行っている。各個人の目標設定と達成状況が明確となり、向上心をもって働ける職場となるよう努力している。2/8 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会、勉強会の予定を掲示板に掲示し、受講を促したり、日々の業務の中で助言等を行い、個々のスキルアップを図るように働きかけている。また、資格取得については支援し合格へと繋げている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 多職種連携会議に出席したり、グループホーム連絡協議会を利用してネットワーク作りをしている。また、外部へ研修へ出ることなどで施設見学などから情報交換や、自施設に取り入れてみたいことなど相談できる関係を築いている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人様、ご家族の想いを聞き、出来るだけその想いに近づけるように(不安や困ったことが軽減するよう)当施設で出来るケア内容について説明を行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族との面会で、困りごと、心配事、不安な事などが無いかお聞きして、新たな要望にも安心してご利用頂けるようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 情報収集を行い、その方が何を必要としているのか必要ないのかを見極め、必要としている事を理解し対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 意思決定は本人様にある事を忘れず、その方らしく日常生活を共に過して頂けるように心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族とゆっくり過ごす時間作りをしたり、一緒に外出、外食などご家族との時間を大切にしながら支援をしている。ターミナル期においてもご家族の希望に添い、出来るだけの支援を行う様にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの美容室を利用されたり、同地区の方のデイサービス利用時や受診先で知人の方々と会話される機会を持つようになっている | 同建物内で行われているデイサービスの利用者とは、日常的な交流がある。施設内行事には、家族や地域住民にも参加してもらう事で、馴染みの関係構築が図られている。又、デイサービス送迎時、地元の利用者も同乗して馴染みの人に出会う事もあり、関係が途切れないよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 1人1人がお互いに声をかけ合われ、自分で出来る事は他の人の手伝いもされ、役割を持ち、生きがいとなるようスタッフも間に入り支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院や他施設入所の際は情報提供を行い面会や訪問を行い、ご家族との関係を維持し、相談事等への対応も行なっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 今までのご本人様の生活歴を考慮し、ご本人様やご家族の意向を確認して、思いの把握に努める。 | 日々の暮らしの中で、リビングでくつろぎたい人、テレビを観たい人、デイサービスの部屋に行きたい人等、個々の思いを把握し、思いに沿った生活の支援に努めている。○○に行きたい、○○が食べたい等の要望にも、できることはすぐに対応し、家族の協力も得ながらできる限り支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人様やご家族から情報を得たり、これまで利用されていたサービス事業所からの情報収集に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご本人様の日々の様子や記録等から現状を把握し、ご本人様の出来ること出来ないこと等を定期的カンファレンス時に検討している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3ヶ月毎のケースカンファレンスで介護計画の評価、見直しを行なっている。またご家族に入居者様の状況をお伝えしながら意見も取り入れ、ご本人様の状況に応じ計画を終結したり、新たな課題は敬語計画に追加している。 | アセスメントシート、主治医の意見書、本人・家族の意向、担当職員の気付き等をもとにケアマネが介護計画を作成している。3か月に一度のケースカンファレンスで評価をし、全職員で話し合っ、「本人の今」をきちんと把握し、本人が居心地よく生活できるための支援となることを重要視した計画作成を目指している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録用紙に気付いた事やとり入れた事等の情報をスタッフ同士で共有し、介護計画に反映させ実施結果を記録するようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人様の要望を一番に考える様にしている。ご家族のお泊りなども受け入れ、可能な限りご要望に添うようにしている。4/8 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域ボランティアとの交流会、地域振興会で行なわれる行事に参加。施設で行なう行事に地域の方々を案内するなど、交流の機会を支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的な訪問診察や必要があればご家族と連絡を取り専門医の受診を促している。また、受診の際は主治医に情報提供を行なっている。 | 約半数の利用者は、母体医院をかかりつけ医としており、定期的な訪問診療で密な連携が図られている。また、入居前のかかりつけ医を継続している方には、受診に付き添い主治医への情報提供を行っており、適切な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日バイタルチェックや身体観察を行い、異変がみられた際は、看護師に報告し状況に応じて受診に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際は介護サマリーにて情報提供を行なっている。また、入院先へ訪問を行い、情報交換し退院時に備えている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に看とりについて説明を行い、家族会でも終末期について話すなど、ご本人様やご家族の意向を聞くようにしている。重度化した場合は入居者様の状態をその都度説明し家族の意向を聞き話し合い出来る限り対応できるように努める。 | 入居前に看取りまで行う方針である事を説明している。入居後も、家族会等で終末期ケアについて話し、最期をしっかりと受け入れられるよう配慮している。今年度、約2か月間の終末期ケアを経験し、家族との信頼関係・職員間のコミュニケーションの深まり等が得られている。更に看取り後の振り返りをする事で、職員のケアの質の向上に繋がっている事が伺えた。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 法人内での全体研修において、緊急時の訓練を行なっている。また、感染症の時期には看護師を中心に施設内でも研修を行い予防に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年3回、火災、自然災害を想定した避難訓練を消防署の協力を得て行なっている。避難場所は地域の協力を得て高台にある病院へ徒歩、車両にて避難訓練を実施もしている。 | 熊本地震以降、職員の防災意識が高まり、地域住民の協力も得て、年3回避難訓練を実施している。津波想定では、ホーム近くの高台にある病院まで、車に分散しての避難と、車椅子を押しての避難で何分かかかるか等、効果的な訓練を行っている。水や食料の備蓄も、時々チェックしながら充実させており、利用者の安全に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 排泄誘導は耳元で小声で行ない他者に気付かれないようにしたり、相談事等は居室で聞いたりしている。また、ドアをノックし訪室するようにしている。個人情報保護に関しては法人全体でシステムを構築している。 | 名前の呼び方は、苗字で呼ぶのを好む人、下の名前の方が喜ばれる人もおり、利用者個々に受け入れてもらえる呼び方に配慮している。利用者個人と以前から知り合いの職員もいるが、馴れ合いにならない対応を心掛けている。また、排泄・入浴時は、声掛けし確認しながら羞恥心に配慮した支援を行うよう努めている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人様がしたい事は怪我や事故が無いよう見守りながら苑艇を散歩したり、ドライブに出かけたりと希望が出来るだけ叶うよう対応している。金銭面でも、少額で管理できる人には自己管理して頂いている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | フロアや居室などご本人の居たい(好きな)場所で過ごしていただくように努めている。また、無理に何かをして頂くことが無いよう想いを大切にしている。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせた服装でご本人様の好みの洋服を着ておられる。また、定期的に美容師の方に来て頂き散髪を行い清潔保持に努めている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理作業では野菜の皮剥きや食材切り等入居者様の出来る事に合わせて一緒に行なっている。また苑内の畑で収穫した野菜や山菜で季節感を感じられるような食事に工夫している。 | 法人の管理栄養士が作成した週間メニューをホームに合わせてアレンジし、地域からの差し入れやホーム菜園の野菜を活用した食事が提供されている。デイサービス利用者と一緒に、食材切りや野菜の皮むきなどを行う利用者もおり、残存能力を活かす支援となっている。地域の人も参加するそうめん流しや、季節に合わせた行事食も、利用者の楽しみとなっている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 1日の食事量、水分量は業務日誌で把握し、献立を中心に提供。食事形態は、ご本人様に合わせてお粥、キザミ、ミキサー食等をトロミを使用して提供する方も居られる。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に口腔ケアを行なっている。義歯の状態を確認し、場合によっては歯科受診や往診にて対応している。また、口腔体操で唾液での自浄作用を期待しての実施 ^{1/8} | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握し、サインを見逃さない様トイレ誘導を行なっている。また、便意や尿意のない方もトイレ誘導し、自然排泄を試みている。 | 日中は、排泄パターンやサインに留意して、できるだけトイレへの誘導を行い、排泄の自立支援に努めている。布パンツとパットや、リハビリパンツの活用で、自分でトイレに行く利用者もいる。夜間はトイレに行く人、ポータブルトイレ利用の人、パット交換の人など、個々の利用者の体調や尿量・排便の様子等、それぞれの状況に応じての対応が行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェックを行い、食事のバランス、水分量等に気を付けている。ヨーグルトや牛乳等乳製品を提供したり、芋類の提供で排泄を誘導している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 午前、午後にとられず、希望のタイミングを見ながら入浴してもらっている。入浴時は出来ない部分のみ介助するように心がけている。また、菖蒲湯や柚子湯なども提供し楽しんで頂いている。 | 週2回の入浴を目安としているが、希望に応じていつでも入浴可能。車椅子利用者も、入浴補助具の活用で浴槽に浸かる事ができ、快適な入浴に繋げている。時には、気の合う利用者二人が一緒に入浴することもあり、温かく見守り、楽しい入浴となるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自宅に居られた時の状態に近づけ自宅で使用していたベッドや布団等の寝具を使用し頂き、また日中の外気浴や夜間温かい飲み物を提供し、冷えている時は湯たんぽ等を使用し安眠へと繋げる。日中は畳で休まれる方も居られる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬されている処方箋を個別にファイリングし、直ぐに確認できるようにしている。服薬支援はドラック表を使用し支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご本人様の好きな事、得意な事を把握しそれぞれに合った作業や楽しみが出来、時にはドライブ等外出し気分転換してもらえるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は散歩に出たり、ご本人様の気持ちを代弁し、ご家族に外出の相談をし畑の見回りや仏壇へのお参りなどに出かける機会を作っている。また、地区行事への参加や季節折々の花を見学に出かけられている。 | ホームの周辺には田園風景が広がって穏やかな自然環境に恵まれているおり、日常的な散歩で気分転換が図られている。職員や地域住民からの情報で、宮地岳のかかし村や牛深の水仙公園・本渡の西の久保菖蒲園等、お出掛けを楽しむ機会も作っている。 | もっと外出の機会を増やしたいという職員もおり、計画的な外出でなくても、時間を工夫して個々の楽しみにつながるような外出支援に期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人様の希望があれば、ご家族の了解の上、訪問販売等での品選びから支払いまでをお手伝いしながら支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人様の希望があれば、ご家族に電話したり、荷物や手紙が届いた際には、連絡を入れご本人様と話してもらうなど、近況報告を兼ねて支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には、季節の花を生けたり、フロアの壁には、地域の方が描かれた絵手紙等を飾り和やかな環境を作る工夫をしている。廊下には物を置かない様にし、トイレは掃除や換気を毎日行い気持ち良く使用出来る状態を保つようにしている。 | 玄関から廊下・リビング・居室へと続く壁の両側には、地域住民の作品である額入りの色紙絵が沢山掛けられており、訪問者の目を楽しませている。リビングには、一段高くなった畳スペースやソファが置かれ、ガラス窓の先に家庭菜園が見えて、落ち着いた雰囲気である。利用者はそれぞれ自分の居場所できつろいでおり、新聞を広げている人もあり、家庭的な居心地の良い共有空間である事が伺えた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 1人で過される時間を尊重しつつ、ソファで中の良い方と座ったり、畳に横になったりできる場所を提供し、ご本人様にとって居心地の良い場所の工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 寝室には、自宅で愛用されていた時計やタンスなど思い出のある物や使い慣れた物を配置している。また、思い出のある写真を飾ったりご本人様がくつろげる空間づくりをしている。 | バリアフリーの居室に、ベッド・整理タンス・収納ボックス・衣装掛け等が配置されている。出窓は、障子仕様で和風の雰囲気があり、落ち着きをもたらしている。出窓の棚には、家族写真や小物等が置かれ、家族の思いが感じられる温かな居室作り見られた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下には物は置かず、手すりを取り付けて、誰もがストレスなく移動できるように努めている。トイレは入口の戸に文字で表示して、そこがトイレであると分かるように工夫している。 | | |